

# 大阪市人権意識

神戸学院大学人文学部教授 神原 文子

## はじめに

平成 22 (2010) 年 11 月、「人権に関する(大阪)市民意識調査」と「人権に関する府民意識調査」とが、ほぼ同じ質問項目で実施され、大阪市・大阪府それぞれにおいて報告書(基本編)が作成されました。

この調査の結果を今後の人権学習や人権啓発などの施策に活かすためには、より詳細なデータ分析を行い、人権意識や差別意識に影響する要因などを明らかにする必要があります。

作業を行うにあたり、データ分析の中心となる人権意識や差別意識を測るための「尺度」作りは市調査データと府調査データとを統合して行うことを提案し、両者の了承を得ました。統合することのメリットは、何よりもデータ数が大きくなり、より詳細な分析が可能となることです。というのは、今回の調査は、標本数は府・市とも 2,000 人、有効回収数は市 716 票、府 903 票と、詳細な分析を行うには、データ量が十分に大きいとはいえないからです。また、市調査と府調査とで人権意識や差別意識を測る「尺度」を共通にすることで、市調査データと府調査データと別々に分析を行うに当たって、共通の「尺度」を用いることで、人権意識や差別意識に関して共通の知見が得られたならば、それらの知見の信頼性はそれだけ高くなるといえるのです。

府・市それぞれの調査の各項目の回答結果に有意差があるかどうかを検討した結果、市は府よりも、基本的属性では年齢構成はやや低く、未既婚もやや既婚率が低く、また、居住年数では府平均 43.0 年に対して市平均 34.4 年と有意差がみられるのですが、幸いなことに、300 以上の質問項目の中で、下記の 14 項目以外の項目では有意差はみられなかったことから、データを統合することに支障がないと判断しました。

### 【有意差のみられた項目】

- ・問 5(府問 3)「結婚相手を考える際に気になること(なったこと)」の「あなたご自身の場合」のうち、「2. 趣味や価値観」、「4. 家事や育児の能力や姿勢」、「14. 同和地区出身者かどうか」
- ・問 9(府問 7)「個別の人権問題に関する行政の取組み状況の変化」のうち、「(6) 老後を安心して暮らせるよう、高齢者の生活を支援するための取組みの状況」
- ・問 12-2(府問 18-2)「人権意識を高める上で特に役に立った(一番印象に残っている)学習の分野・形式」の「分野」のうち、「6. 外国人の人権問題」、「形式」のうち、「5. リバティおおさかやピースおおさかなど、人権問題に関する施設の見学」
- ・問 15(府問 11)「同和問題を知ったきっかけ」のうち、「3. 学校の友達から聞いた」「8. テレビ、映画、新聞、雑誌、書籍などで知った」、「10. 近くに同和地区があった」、「14. 同和問題については、知らない」

- ・問 17-1(府問 13-1)「同和問題に関する差別意識がなくなる理由」のうち、「1. 結婚問題や住居の移転などに際して、同和地区出身者やその関係者とみなされることを避けたいと思うから」、「10. これまでの教育・啓発の手法では、差別意識をなくすことに限界があったから」
- ・問 18-1(府問 14-1)「同和地区にイメージを持った理由」のうち、「3. インターネット上の情報やメディアによる報道、書籍などからの情報で」
- ・問 23(府問 19)「同和地区やその住民との関わり」のうち、「2. 同和地区に友人(知人)がいる」

『尺度』作りは、市調査データと府調査データとを統合した1,400人分(府調査の大阪市内分のサンプルは大阪市民意識調査のサンプルの一部を用いたため、府有効回収調査票903票+市有効回収調査票716票-府有効回収調査票のうち大阪市内分219票)で行いますが、それ以降の分析は、府・市別々に行うことにいたします。

## 1 問題意識

今後の人権施策にデータ分析結果を活かすという調査目標に基づき、市と府と共通に、以下のように分析課題が〈視点〉として示されています。これらの〈視点〉に答えるべく、順次、分析を行うことにいたします。

- 〈視点1〉過去の人権問題の学習経験が、現在の人権意識にどのような影響を与えているか。
- 〈視点2〉同和地区に対する差別意識（負のイメージ）が形成される要因はなにか。
- 〈視点3〉同和問題に関する人権意識と、他の人権課題や差別に対する意識との間に差異はあるか。
- 〈視点4〉同和問題に関する差別意識がなくなる理由と、同和問題を解決するために効果的な方策との関係性
- 〈視点5〉人権問題に対する意識と実際の行動パターンとの関係性
- 〈視点6〉結婚における問題意識と他の差別事象との関係性
- 〈視点7〉住宅を選ぶ際、同和地区の物件を避ける意識を有する者と、同和問題に関する差別がなくなる理由との関係性